

患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの(株)フジキン総務部部长兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライブインゲスクール合宿型システム作りを依頼される(ガイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第47回 病院長との意見交換会に向けて

今月22日、島根県下全
病院長のがん診療ネット
ワーク協議会があり、そ
ろく30分間、がんサロ
ン患者との意見交換会が
行われていたが、県下

組み込まれることとなっ
た。2008年以降、毎
年一回がん診療拠点病院
長のみと2時間の意見交
換を行っていたが、県下

心を開いた話し合いを

全病院長との意見交換会
に拡大された。しかし時
間は大幅に短縮されるこ
とになった。

病院長との意見交換は
増えたが、その成否は分
からない。県がん対策推
進室から事前に質問事項
を提出するよう依頼を受
けたので書面で提出した。

①厚労省で承認された抗
がん剤について、病院毎
に使うタイミングが異な
る現状。

②TQM(トータルクオリ
ティマネジメント)発
表会を市民に公開する
③ひやりハット事例を公
開すれば事故は減る

④病院経営合理化と顧客
満足度をどう考えるか

①の場合、がんの部位
によっては抗がん剤が少
なく、都会の病院に行き
たくても費用がかかり、
地元で治療するしかな
い。このような患者は後
をたたない。これでは生
きる希望も無くし、治療
に支障をきたすこともあ
り、患者の「いのちの格
差」にもつながる懸念が
有る。県がもっとイニシ
アチアをとって纏めるこ
とは出来ないのだろうか。

②について、私自身メ
ーカーに勤務していた
際、トータルクオリティ
コントロールに取り組ん
でいたので「顧客満足
度」を重点に考えてい
たことを思い出した。そ
の点、医療の世界ではま
だCSについて意識が出
来あがってはいない感じ
がする。

③は、患者・家族を含
む沢山の目で監視すれば
事故は必ず減少する。患
者・家族の視点をもっと
大切にしてほしい。

④病院経営合理化と顧
客満足度は相反する事項
であり、これをどのよう
にして患者を納得させる
か課題は多い。

がん患者と全院長が向
きあい意見交換をする会
議は全国的にも珍しい。
この事例が全国に波及す
ることを望んでいる。毎
回参加しているが、一向
に進展が見られないのは
どうしてだろう。県下に
26ヵ所ものがんサロンが
あるのに形式に囚われ、
相互がもっと心を開いて
の話し合いが出来ていな
いかもしれない。